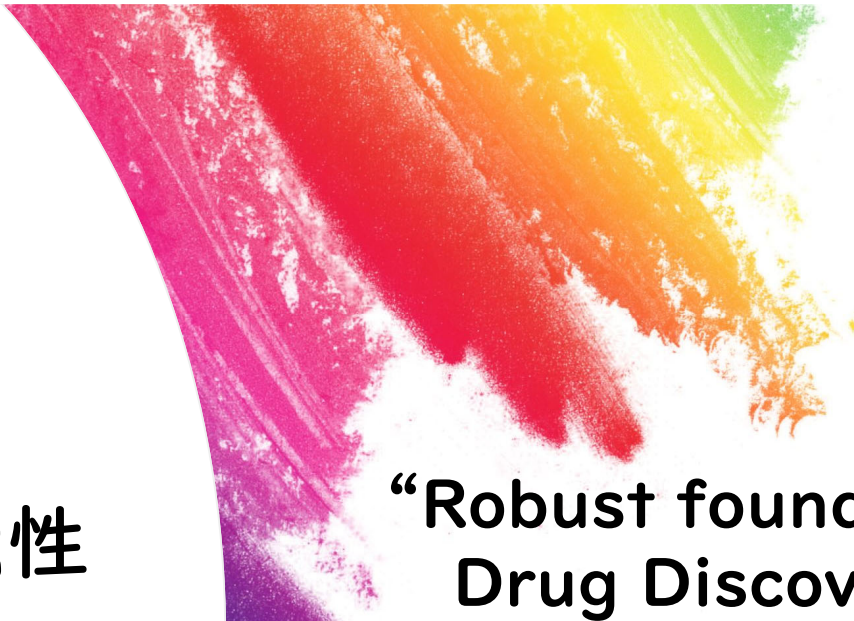


東証グロース
4571

事業計画及び成長可能性 に関する事項

NANO MRNA 株式会社

2025年6月27日(金)



“Robust foundation for
Drug Discovery Concert”

mRNAの未来を協創する



Global leader for “RNA for health”

Mission

Robust foundation for Drug Discovery Concert

会社概要 **NEW**



設立	1996年6月14日
上場市場	東京証券取引所 グロース市場 (2008年3月5日 東証マザーズ上場)
所在地	本社 東京都港区 研究所 神奈川県藤沢市村岡東(湘南iPARK)
子会社	株式会社 PrimRNA
	PrimRNA AU Pty Ltd
資本金	166 百万円 (2025年6月27日現在)
発行済株式総数	70,625,458 株 (2025年6月27日現在)
役職員	27名 (2025年6月27日現在)

<経営チーム>

代表取締役社長CEO	秋 永 士 朗
代表取締役会長	松 村 淳
取締役	松 尾 隆
取締役(社外)	黒 圖 肇
常勤監査役(社外)	和 田 成 一 郎
監査役(社外)	坂 本 二 朗
監査役(社外)	清 水 琢 磨

RNA医薬候補アセットの早期ライセンスアウトモデル

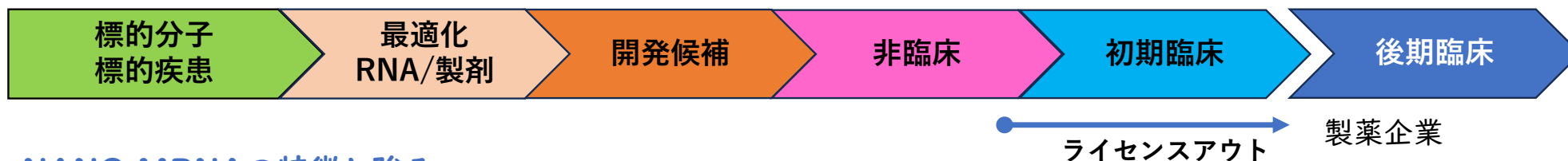
- ◆ 企業やアカデミアとの協働により、RNA医薬に関するアセットを創出し、製薬企業にライセンスします
- ◆ 国内外の企業からRNA医薬の研究開発を受託します



企業やアカデミアなど

医薬品候補アセット

IP 特許 / ノウハウ (製造・非臨床) / Dossier (開発のための書類)
物質 核酸 / ポリマー



NANO MRNAの特徴と強み

経験に基づく多様なDDSの選択オプションで、RNA創薬を推進

- 独自のポリマーDDS技術およびDDS製剤の開発・製造
- 核酸医薬 (siRNA ・ ASO ・ mRNA) の当局対応を含む研究開発経験

※DDS (Drug Delivery System:薬物送達技術)

Global leader for “RNA for health”



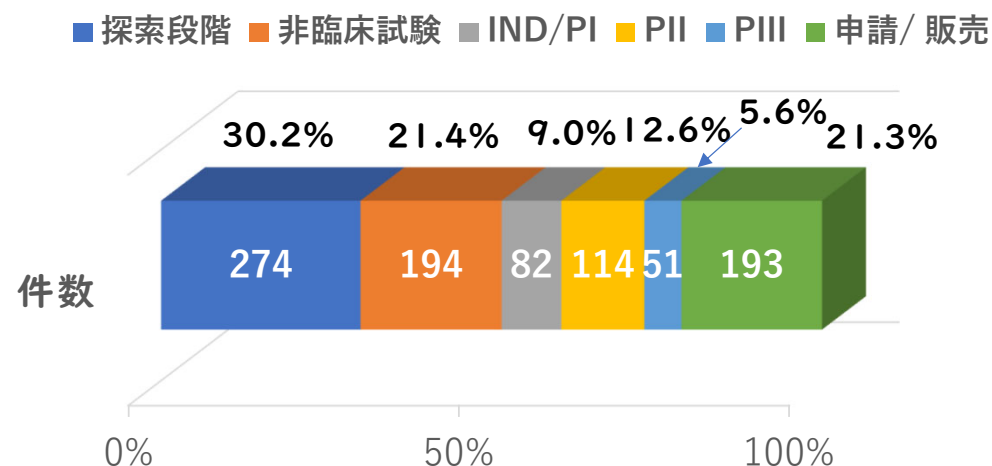
NEW

成長戦略およびビジネスモデル

2024年 製薬企業のDeal概要



ライセンス件数における
リードアセットの開発段階の件数と割合



主な契約51件のモダリティ内訳

低分子/ペプチド 22件
抗体 11件
ワクチン 3件
mRNA 3件
核酸 2件
蛋白質・酵素 2件
遺伝子治療 2件
放射性医薬 2件
遺伝子改変細胞療法 2件
不明・非開示 2件

ライセンス取得	ライセンス提供	一時金/総額(百万ドル)	ライセンス概要
GSK	Curevac	429/1,556	Covid-19/インフルエンザのmRNAワクチン
Epitopea	Genevant Science	124/非開示	LNP技術(RNAベースの免疫療法)
BMS	Repertoire Immune Medicines	65/1,865	自己免疫疾患のmRNAワクチン
Sarepta Therapeutics	Arrowhead Pharmaceuticals	825/1,075	PI/2 siRNA薬4つと前臨床3つ
Novartis Pharma	Shanghai Argo pharmaceuticals	185/4,350	PI/2とPI RNAi薬

RNA医薬品の急成長



■ 2023年から現在までに13剤のRNA医薬品(mRNA、siRNA、ASO、Aptamer)が承認

mRNA	:6剤	COVID-19 ワクチン5剤(日本、中国中心)、RSVワクチン1剤(欧米)
ASO	:4剤	中枢神経疾患2剤、代謝疾患1剤、 がん(MDS)1剤*
siRNA	:2剤	代謝疾患1剤、血友病1剤
Aptamer	:1剤	中枢神経(ALS)1剤

*世界初のRNA抗癌剤(Telomerase阻害剤)

■ 2025年1Qに注目されるRNA医薬候補が登場

新規DDSを用いたASO2剤

VP-001 CNOT3 網膜色素変性症(FDA RPD Designation)

DYNE-101 DMPK 筋強直性ジストロフィー1型(FDA Fast Track)

mRNA2剤(LNP)

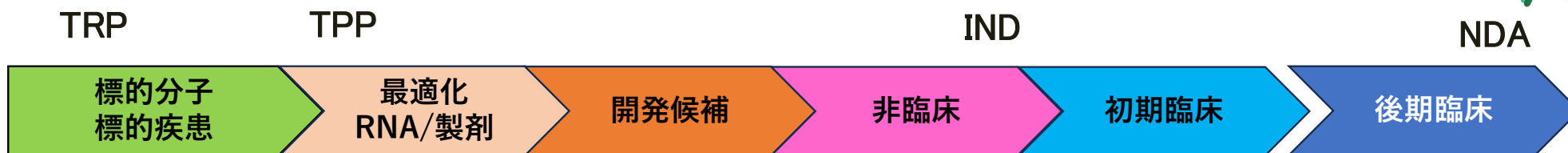
IN-013 ATP7B mRNA Wilson disease(FDA RPD Designation)

AMO-101 CAS12i2 mRNA Genome edition 原発性高シュウ酸尿症1型(FDA RPD Designation)

新規標的siRNA1剤

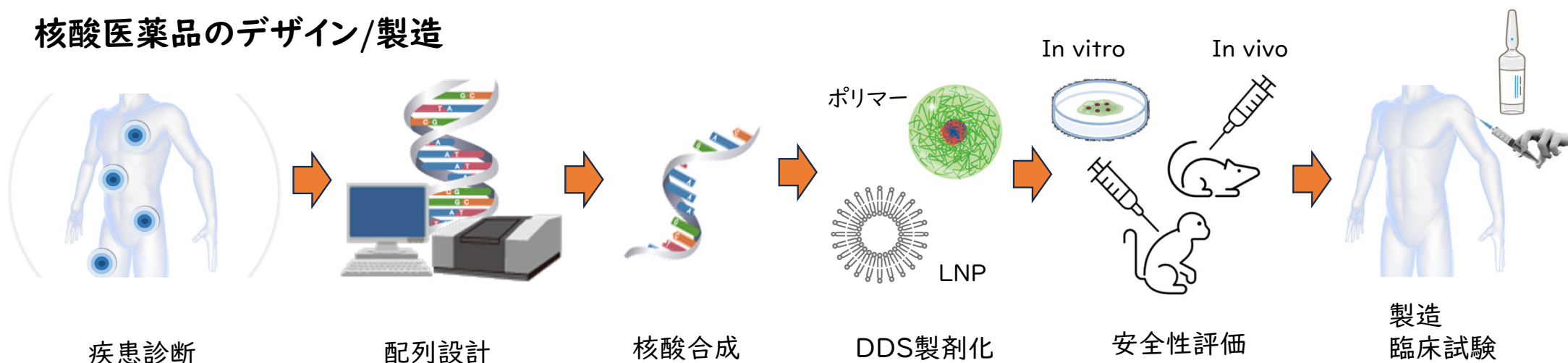
CBP-4888 sFLT1 妊娠高血圧腎症(U.K. Innovative Licensing and Access Pathway)

核酸医薬品の創薬の流れ



- siRNA/ASO/mRNA医薬の創薬初期プロセスは低分子医薬品と大きく異なり、“Genome Medicine”のコンセプトに立脚 → Dry experimentの貢献度大
- DDSの選択が開発候補選定に必須（他のmodalityとの差）
- CMCは、siRNA/ASOは低分子と類似し、mRNAはBiologicsと類似するが、共にCMC上の課題あり

核酸医薬品のデザイン/製造



RNA医薬品の課題 ▶ 生体内安定性、細胞への取り込み、生体内分布（組織選択性）

解決策

▶ デリバリー技術

- 脂質ナノ粒子（LNP）
- GalNAcコンジュゲート
- その他

なお、生体内安定性の向上には、修飾核酸技術も用いられる

例：

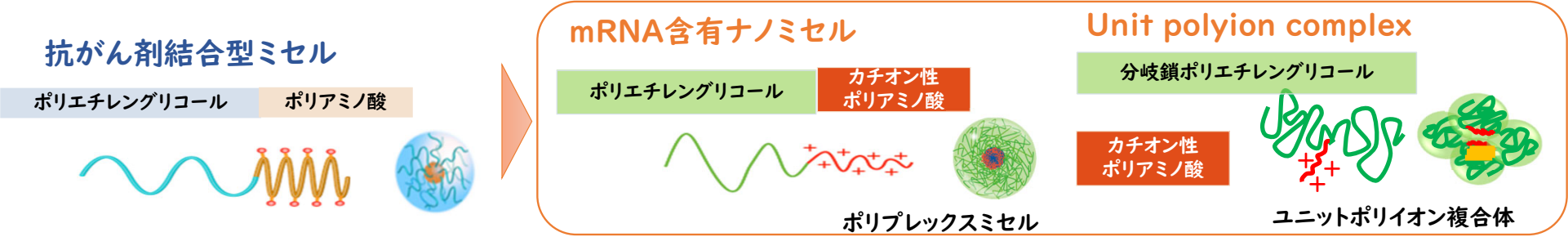
Onpattro (patisiran)	:LNP
Givlaari (givosiran)	:GalNAc conjugation (targeted liver delivery)
Wainua (eplontersen)	:GalNAc conjugation (targeted liver delivery)
Tryngolza (olezarsen)	:GalNAc conjugation (targeted liver delivery)
mRNA vaccines	:LNP

ナノキャリア/NANO MRNA のDDS技術の進化と核酸医薬へのシフト

1996年 技術発明者である片岡一則らとともに中富一郎がナノキャリア株式会社(現NANO MRNA)を設立



Dr. KATAOKA
東京大学名誉教授



2000 2008 2015 2020 2023 2025

東証マザーズ上場 アキュルナ吸収合併 NANO MRNAに社名変更

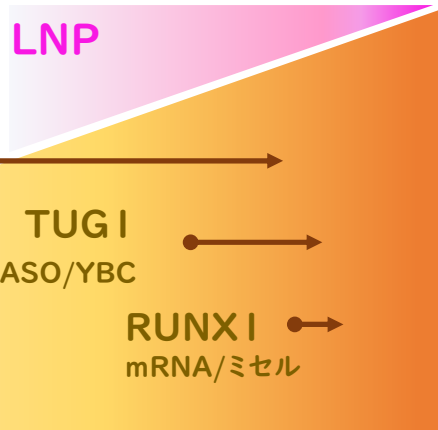
抗がん剤

- NK105 → 物理吸着型ミセル 抗体結合型ミセル
- NC-6004 → 化学結合型ミセル
- NC-4016 → 化学結合型ミセル
- NC-6300 → pH応答性ミセル

核酸医薬
NanoFect

アキュルナ設立
2017年~2020年
CEO 秋永士朗

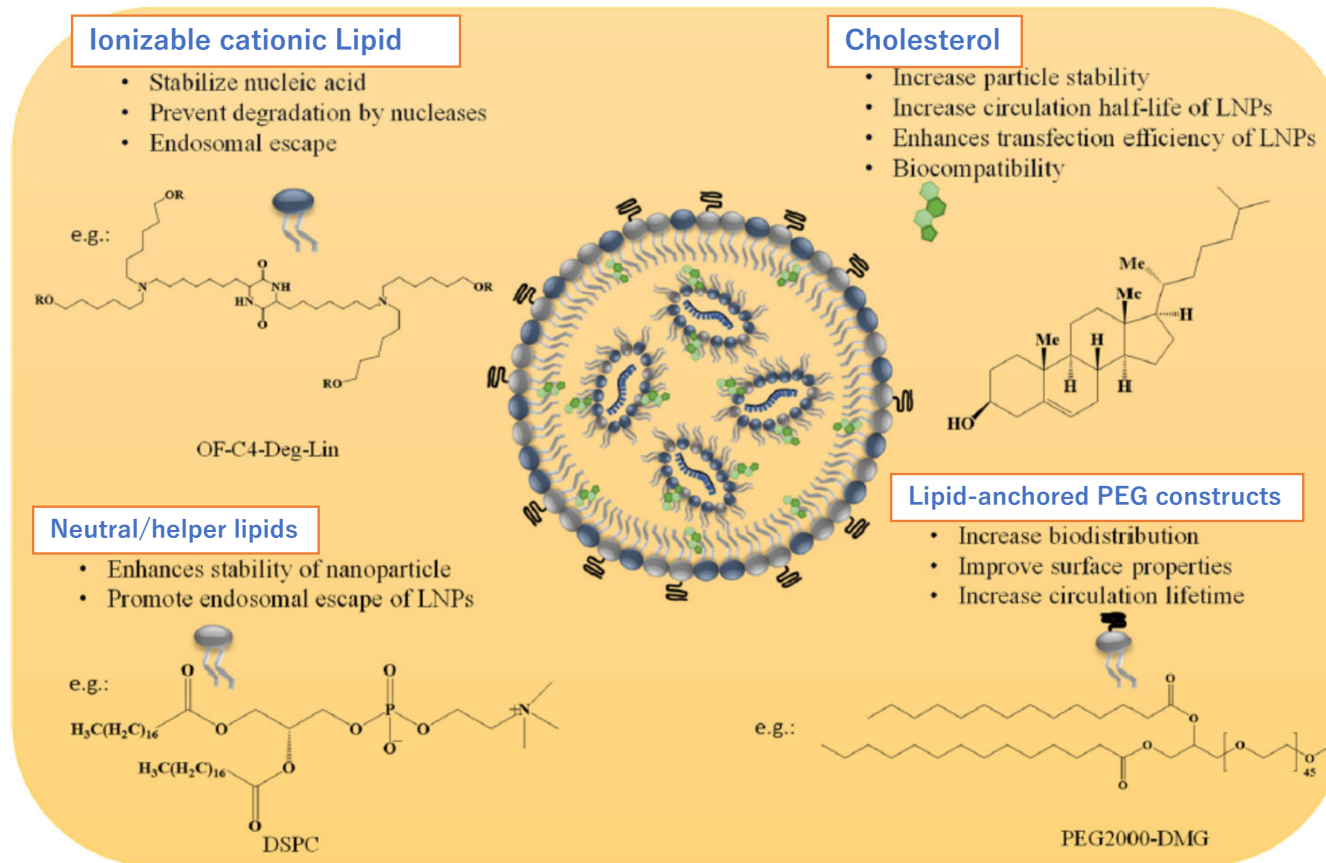
- PRDM14 siRNA/YBC
- TUG1 ASO/YBC
- RUNX1 mRNA/ミセル



脂質ナノ粒子(Lipid Nano Particle) : mRNA医薬開発に必須の送達技術



mRNA医薬の標準的な製剤: 脂質ナノ粒子 (LNP)



- ◆ Ionizable cationic Lipid (イオン性カチオン脂質) は標的細胞への侵入および endosome escape に重要な働き
- ◆ Helper lipid (コレステロールやリン脂質) は粒子の安定化に寄与
- ◆ PEG-lipid は安定化およびステルス化に寄与

配合バランスにより
デリバリー機能に
特徴を持たせることが可能

LNPなくしてmRNAワクチンの成功なし
ノーベル賞は受賞出来なかったが
「ノーベル賞級」の研究成果

Figure 1. Composition of LNPs and importance of each component.

Vaccines 2023, 11, 658. <https://doi.org/10.3390/vaccines11030658>

パイプラインの進捗をドライバーとした事業展開



➤ 核酸医薬/uPIC (Unit polyion complex)



■ PRDM14 siRNA、TUG1 ASOの臨床試験

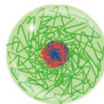
PRDM14 siRNA、TUG1 ASO、およびYBC-polymer/uPICの有用性の実証

■ 核酸医薬を取り巻く環境

承認数の増加、臨床開発の進展による研究開発および投資活動の活性化

- TUG1 ASOの導出に加えて、YBC-polymerによる共同開発、技術ライセンス
- PRDM14、TUG1プロジェクトのサクセッサー・プロジェクトの推進によるパイプライン強化
 - ✓ 次世代TUG1 ASOプロジェクトを名大・近藤豊先生と共同で推進中(次世代がんグラント)
 - ✓ 新規核酸誘導体を含む展開で膠芽腫以外の固形がんの適応も検討中

➤ mRNA/polyplex nanomicelle

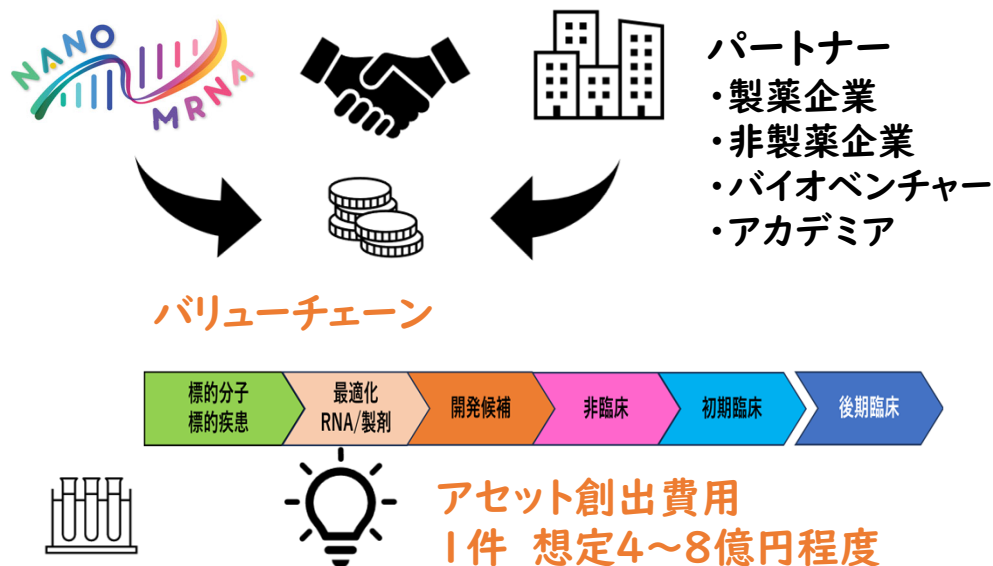


- RUNX1 mRNAの臨床試験開始
- 局所再生薬研究の推進(千寿製薬など)
- mRNAエンコード抗体、ゲノム編集、in vivo/ex vivo CAR-T療法などをアカデミア、バイオベンチャーなどと検討開始

収益モデル



協業型・創薬ベンチャー型事業



アセット導出



- RNA医薬候補品
- DDSプラットフォーム

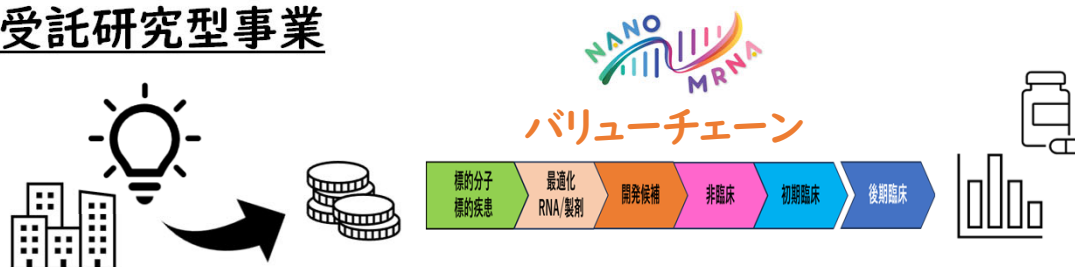
グローバル製薬企業などへ

契約一時金

+

マイルストーン、ロイヤリティ
(契約時の開発ステージに依存)

受託研究型事業



RNA医薬の研究開発を受託

1件 数千万~数億円程度(想定)

mRNA医薬: 広範な適応 – 世界現状: 2025年 –



mRNAエンコード抗体

mRNA-1944 (Chiku) P1 POPA
BNT-142 (CD3/CLDN6) P1



企業と評価検討中

ゲノム編集

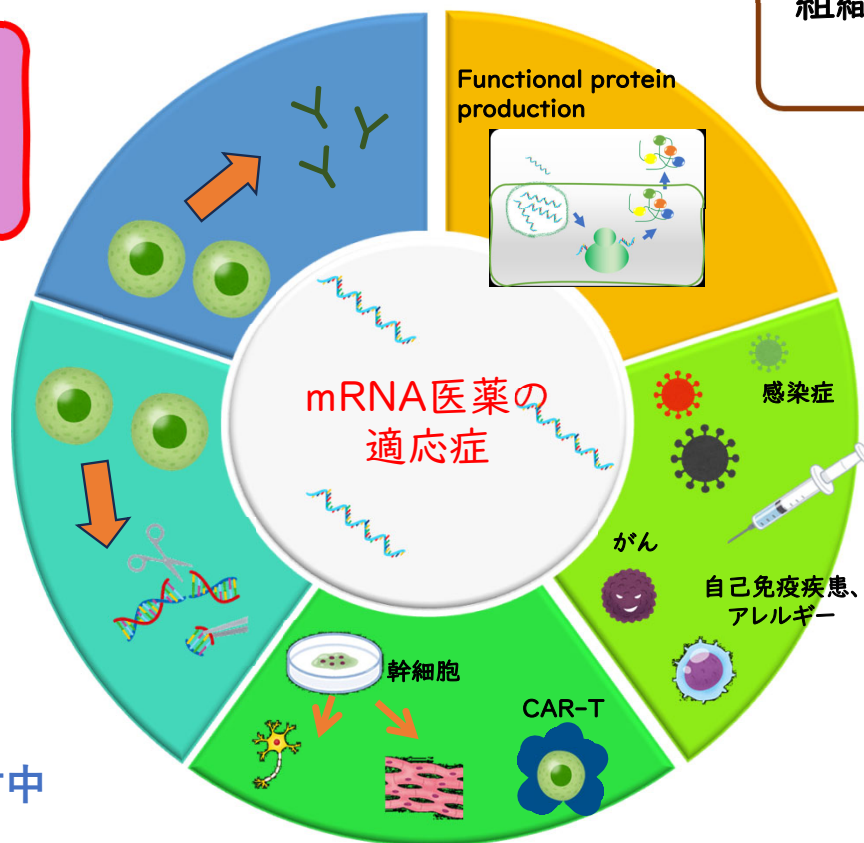
NTLA-2001 ATTR P2 POC
VERVE-101 PSCK9 ASCVD P1
BEAM-301 GSD1a R38C P1



アカデミアや企業と評価検討中



アカデミアや企業と検討中



組織再生医療



心血管系治療

AZD8601 VEGF P2 POC
mRNA-0184 Relaxin P1

遺伝性疾患

mRNA-3927 プロピオン酸血症 P2 POC
mRNA-3705 メチルマロン酸血症 P2 POC
Cystic fibrosis CFTR mRNA 4 pipelines
Arcturus, Vertex, Sanofi, ReCode

ワクチン

感染症

mRNA-1345 (RSV) FDA承認
mRNA-1010 (Flu) PIII success
mRNA-1083 (Flu/Covid) PIII

がん

mRNA-4157 (Neoantigen) PIII
BNT112 (Neoantigen) PII
BNT111 (FicVac) PII

Immune-tolerance Vaccines



細胞医療

Descartes-08 BCMA mRNA
CAR-T MG P2

新しい適応に広がるmRNA医薬技術



ゲノム編集

既存編集技術①

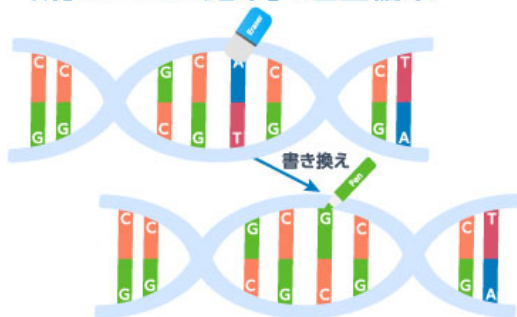
「遺伝子のはさみ」CRISPR-Cas9



DNAを切断し編集するため、望ましくないDNA修飾が生じる可能性を含んでいる

次世代編集技術②

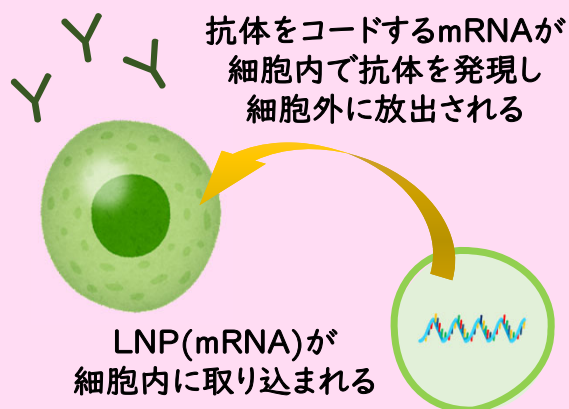
「消しゴムと鉛筆」1塩基編集



mRNAを用いて特定の塩基を別の塩基に書き換えるので、安全性が高まると期待される

mRNAエンコード抗体

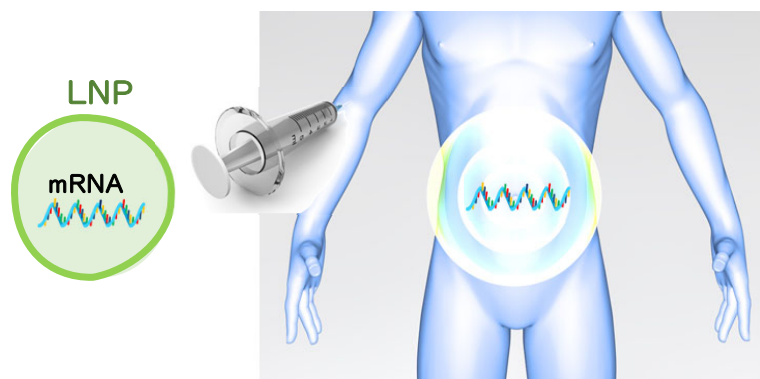
生体内で抗体を産生



細胞医療

生体内でCART Cellを産生

CARをコードするmRNAが細胞内でCARを発現し細胞表面に提示される



初期臨床試験の加速

- POC/POPAの早期取得
 - ・TUGI ASO
 - ・RUNXI mRNA

DDSプラットフォーム技術

- YBCポリマー・ナノミセルの価値最大化
- GMP製造可能な企業とのパートナーシップ

mRNA創薬

- 組織再生・ワクチンから新規モダリティへのシフト
- mRNAエンコード抗体、ゲノム編集、*In vivo* / *ex vivo* CAR-T療法等

がん治療に再Focus

- TUGI successor
- PRDMI 4 successor
(新規オリゴ核酸 + YBC)



企業成長実現に向けた Step Up Process

2023年～

mRNA創薬へビジネス転換。

NANO MRNA 1.0

- 新しい治療技術mRNA医薬の創製を目指したIPGモデルの確立を図る

2025年～

新たな可能性へのチャレンジ。

NANO MRNA 2.0

- 核酸DDS技術のPOC取得による価値最大化
- 様々な治療技術と融合し、第2世代mRNA医薬を創製

Global leader for “RNA for health”



NEW

パイプライン

パイプライン



開発品目	疾患	シード	非臨床			臨床PI	パートナー
TUG I ASO	膠芽腫					DoseLevel3 (最大4)	名古屋大学 
RUNX I mRNA	変形性膝関節症					準備中 	東京科学大  CIRCLE
mRNA (眼科)	眼科疾患						SENJU
mRNA (免疫寛容)	免疫・アレルギー						KAO
mRNA (免疫寛容)	免疫・アレルギー						KAO
TUG I ASO successor	固形がん	新規					名古屋大学 
PRDM I 4 siRNA successor	固形がん	新規					金沢大学
Genome Edition mRNA	遺伝子転座を有するがん	新規					非開示

TUG I ASO:長鎖非翻訳RNA TUG I に対するアンチセンス核酸/DDS製剤



対象疾患: 膠芽腫 (ファースト・イン・クラス抗がん剤)

- がん細胞の異常増殖に伴う複製ストレスを増大させることにより細胞死を誘導する
- 名古屋大学医学部・近藤豊教授/斎藤竜太教授との共同研究開発
AMED革新がん医療実用化事業(2026年3月まで)、臨床研究治験推進研究事業(2027年3月まで)採択
- 強固な知的財産権(TUG関連特許独占ライセンス済+YBCポリマー自社特許)

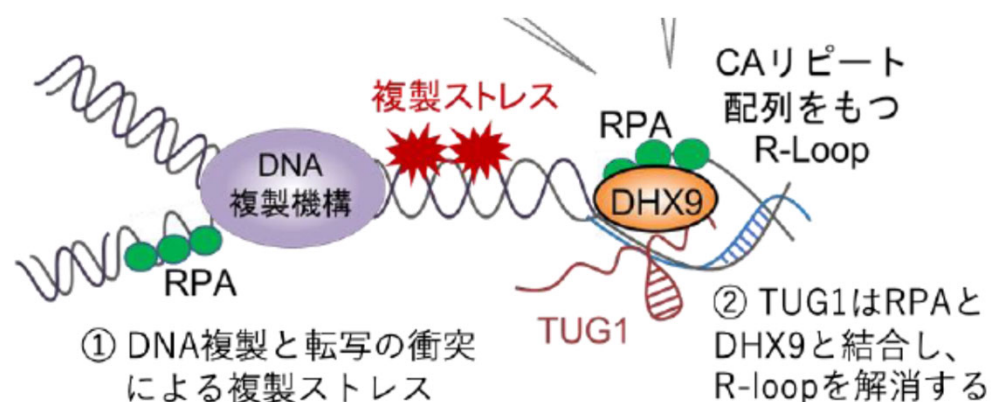
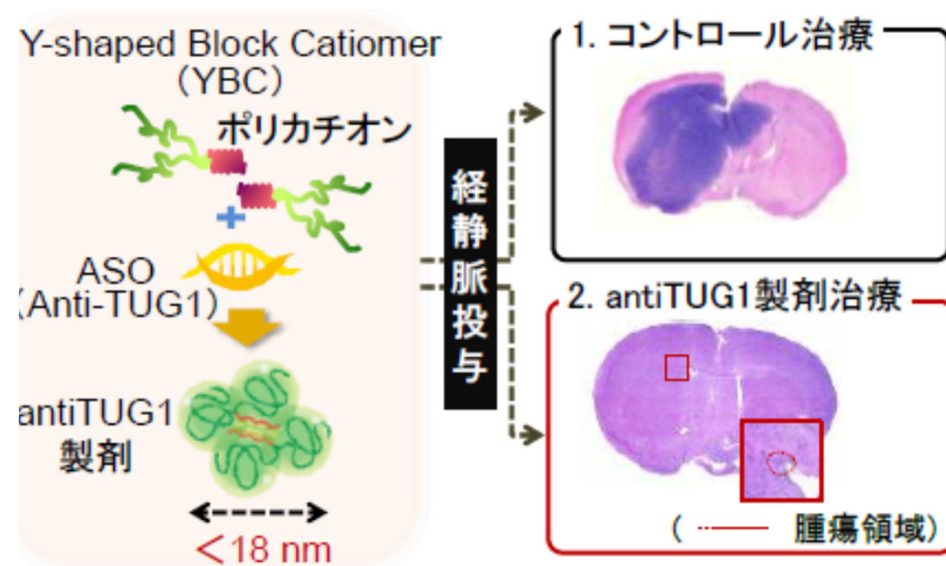


図2 複製ストレスによって発現上昇するTUG1はR-loopを解消する

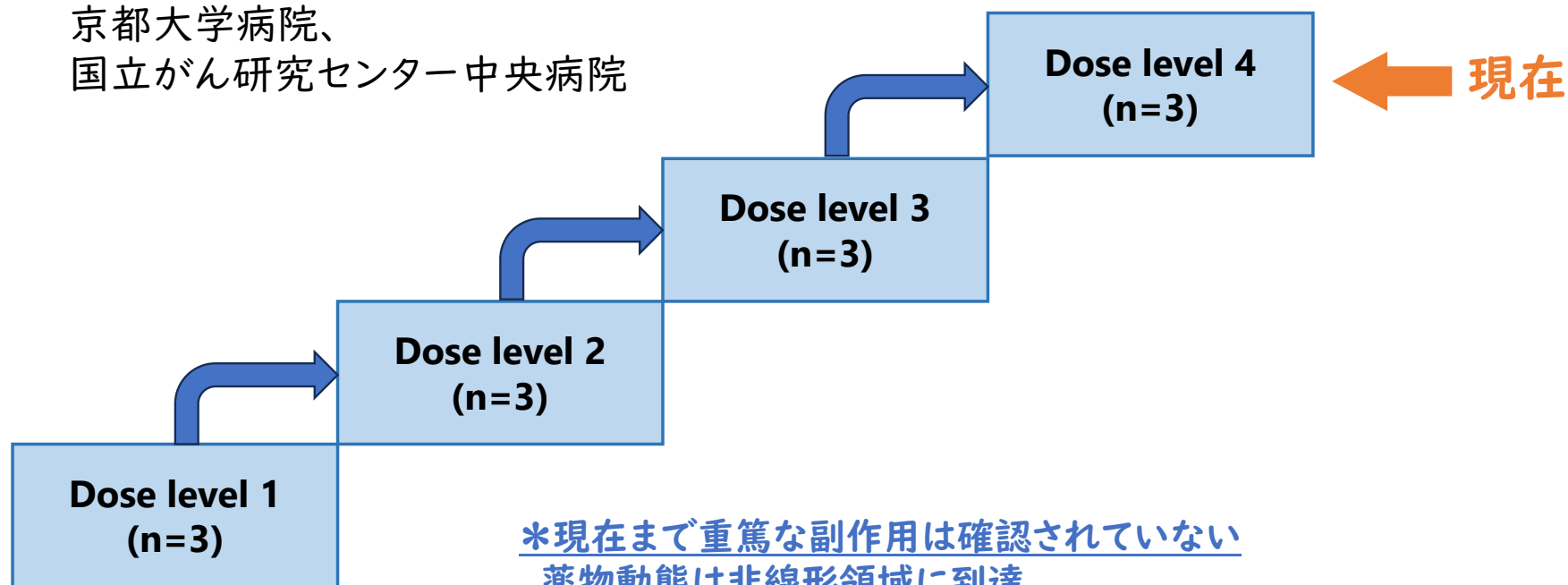


TUG I ASO: 第I相臨床試験概要



対象疾患: 再発膠芽腫

主要評価項目: 安全性、忍容性、最大耐量
副次評価項目: 有効性(奏効率、奏効期間、PFS、OS)、薬物動態
開始: 2024年2月
実施施設: 名古屋大学病院、
京都大学病院、
国立がん研究センター中央病院



■ 2025年から国際的なイベントにおいて、TUG I ASOおよびYBCポリマーの有用性を紹介

⇒ 医師主導第I相治験終了後の速やかな導出への布石

2月: TIDES ASIA 2025 (京都)

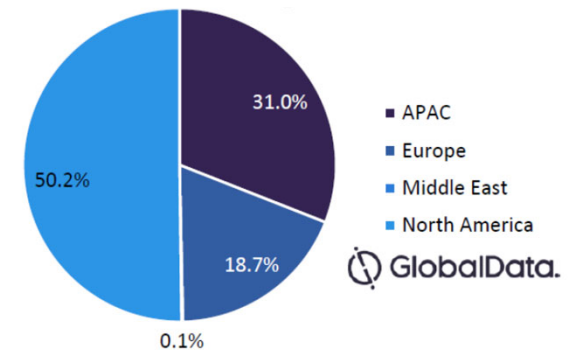
4月: The 4th China Nucleic Acid Drug and Neotype Vaccine Industrial Conference (上海)

6月: BIO International 2025 (ボストン)

10月: RNA leaders APAC 2025 (シンガポール)

国内では7月の核酸医薬学会臨床シンポジウムで発表

GBM治療薬の世界市場
2031年予測
32億ドル

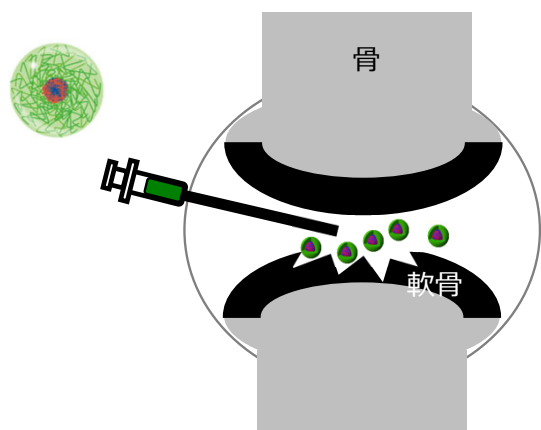


RUNX1 mRNA:転写因子RUNX1のmRNA/DDS製剤



対象疾患:変形性膝関節症(疾患修飾薬)

- 軟骨の再生を促進する転写因子RUNX1をコードするmRNAのDDS製剤を膝関節内に投与
- 東京科学大学・位高啓史教授との共同研究開発(AMED CiCLEに採択)
- 自社特許保有

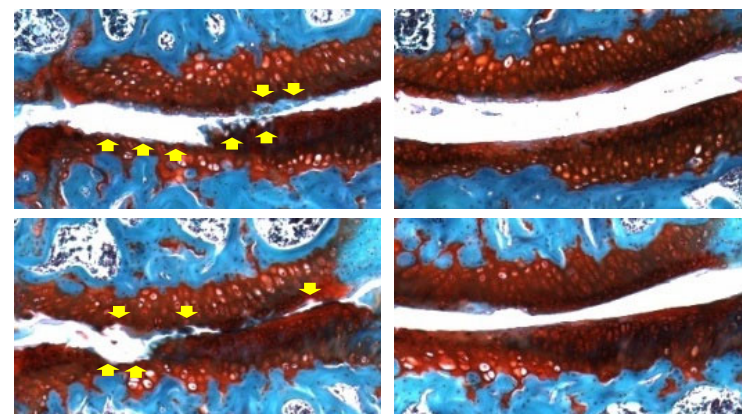


位高教授らの研究から
Aini et al., Sci Rep 6:18743,2016

RUNX1 mRNA治療後の膝軟骨組織像

対照群

RUNX1 mRNA投与群



対照群では関節軟骨表面のめくれ・変性・摩耗が認められる一方、RUNX1 mRNA投与群では、抑制されている

RUNXI mRNA:国内治験からオーストラリア治験へ(PrimRNA)



RUNXI mRNA :軟骨の再生を促進する転写因子RUNXIをコードするmRNAのDDS製剤

対象疾患:変形性膝関節症

■ 第I相臨床試験開始におけ準備中

PMDA相談の長期化(CMCパートのみ)

⇒AMEDと国内医師主導治験からオーストラリアでの企業治験への変更を相談
AMEDから承認(2025年3月)

- オーストラリアにおける治験実施施設、CROなど選択済み
- 治験関連文書作成中

投与開始:今年度2Q見込む

第I相臨床試験計画概要

対象患者 :関節置換術を予定する変形性膝関節症患者

評価項目 :安全性

探索的評価 :変形性関節症関連遺伝子の発現などのバイオマーカー解析

試験デザイン:用量漸増試験(関節腔内投与)

RUNX1 mRNA:変形性関節症治療薬の市場動向



推定市場規模

2024 : 91.3億ドル~ 99.1億ドル
2030-2034: 135.7億ドル~243.4億ドル
(年平均成長率: 6.18%~ 9.4% 推定期間の予測値)

成長を牽引する主な因子:

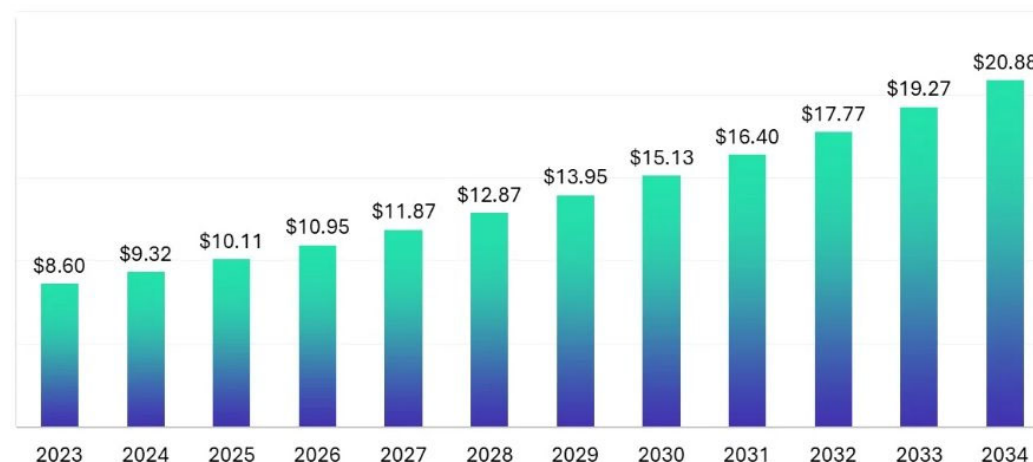
- 高齢化
- 肥満、生活スタイル
- OAに対する意識の向上
- 低侵襲治療技術などの技術の進歩
- 疾患修飾型OA治療薬の上市

各地域の動向:

- 北米: 肥満人口率が高く、政府の政策的な後押しもあるため、OA市場で最大のシェアを占める
- 欧州: 北米と同様に、高齢化および肥満人口の増加により、OA市場で大きなシェアを占める
- アジア・オセアニア: 生活スタイルの変化および高齢化による有病率の上昇、医療費の増加、OAに対する意識の高まりにより、最も市場の成長が著しいと予想される



Osteoarthritis Market Size 2023 to 2034 (USD Billion)



Source: <https://www.towardshealthcare.com>

Global leader for “RNA for health”



NEW

2025年3月期 通期決算概要
2026年3月期 事業計画

2025年3月期 連結損益計算書



(単位:百万円)	2024年3月期 実績(連結)	2025年3月期 見込(連結)A	2025年3月期 実績(連結)B	増減 (B-A)
売上高	135	108	108	0
売上原価、販売費及び一般管理費	999	1,001	863	△ 137
内:研究開発費	647	561	422	△ 139
営業損失	△ 864	△ 893	△ 755	137
営業外損益(ネット)	114	37	67	30
経常損失	△ 749	△ 856	△ 687	168
当期純損失	△ 780	△ 994	△ 835	159

売上高要因

化粧品材料供給、受託研究事業及び抗体譲渡

2025年3月期 連結貸借対照表



(単位:百万円)	2024年3月31日	2025年3月31日	増減
現預金、運用債券(手元流動性)	4,277	3,505	△ 771
その他流動資産	184	115	△ 68
固定資産	609	375	△ 233
資産合計	5,071	3,996	△ 1,074
転換社債型新株予約権付社債	1,108	540	△ 568
その他負債	540	716	175
負債合計	1,649	1,257	△ 392
資本金及び資本剰余金	5,665	5,713	47
利益剰余金	△ 2,151	△ 2,986	△ 835
その他有価証券評価差額	△ 108	△ 2	106
新株予約権	15	15	0
純資産合計	3,421	2,739	△ 681
負債・純資産合計	5,071	3,996	△ 1,074

2025年3月期 連結キャッシュフロー計算書



(単位:百万円)	2024年3月期 実績(連結)	2025年3月期 実績(連結)	増減
連結営業キャッシュフロー	△ 585	△ 401	183
連結投資キャッシュフロー	793	587	△ 205
連結財務キャッシュフロー	3	△ 568	△ 572
換算差額	54	4	△ 49
期首残高	1,309	1,575	265
期末残高	1,575	1,197	△ 378

連結財務活動によるキャッシュ・フロー

転換社債型新株予約権付社債の償還による支出 △568百万円

実施中の資金調達の概要（リファイナンス及び新規発行）



2023年1月26日発表

RNA医薬の研究開発を推進するための資金として

➤ 第6回無担保転換社債型新株予約権付社債

予約権総数 : 39個
潜在株式数 : 普通株式 7,200,754株
転換価額 : 154円
資金調達額 : 0円（第5回無担保転換社債型新株予約権付社債39個（額面11.2億円）を出資）

割り当て先：
THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合
（株式会社ウィズ・パートナーズ）

NEW
⇒ 第5回無担保転換社債型新株予約権付社債のリファイナンス
※ 2024年12月26日 一部（20個）繰上償還済み 償還金額 568,675,000 円
資金使途変更 : mRNA医薬品開発の推進（950百万円 → 382百万円に変更）
TUG 1 医薬の治験・導出活動費用（200百万円）

➤ 第20回新株予約権

予約権数 : 102,642個
潜在株式数 : 普通株式 10,264,200株
行使価額 : 154円
現在までの調達額 : 発行分0円（第5回無担保転換社債型新株予約権付社債1個（額面28百万円）を出資）
⇒ これにより第5回無担保転換社債型新株予約権付社債の残存は0

割り当て先：
THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合
（株式会社ウィズ・パートナーズ）

行使分0円（全て行使された場合の調達額1,580百万円）
支出予定期間 : ~2025年 12 月
資金使途 : mRNA医薬品開発の推進（910百万円）
TUG 1 医薬の治験・導出活動費用（155百万円）
革新的mRNA技術獲得及びM&A（500百万円）

実施中の資金調達の概要（新規発行）



2023年5月26日発表

関係強化による新規mRNA医薬の研究開発を推進するための資金として

➤ 第21回新株予約権

予約権数 : 23,585個
潜在株式数 : 普通株式 2,358,500株
行使価額 : 212円
現在までの調達額 : 発行分 6,839,650円
行使分0円（全て行使された場合の調達額 500百万円）
支出予定期間 : ~2028年 6月
資金使途 : mRNA医薬品開発の推進 (500百万円)

割り当て先 : IPガイア

予約権数 : 23,585個
潜在株式数 : 普通株式 2,358,500株
行使価額 : 212円
現在までの調達額 : 発行分 6,839,650円
行使分0円（全て行使された場合の調達額 500百万円）
支出予定期間 : ~2028年 6月
資金使途 : mRNA医薬品開発の推進 (500百万円)

割り当て先 : アクセリード

調達資金充当に関する説明

※2025年5月31日時点



資金調達	調達額	用途	充当額	使用期間
第5回無担保転換社債型 新株予約権付社債	1,150百万円 NEW	・ mRNA医薬品開発の推進	362百万円	2023年2月 ～2024年12月
		・ TUG1医薬の治験・導出活動費用	220百万円	
		・ 第6回無担保転換社債型新株予約権付 社債の一部繰上償還費	568百万円	
第6回無担保転換社債型 新株予約権付社債	0円	・ mRNA医薬品開発の推進 ・ TUG1医薬の治験・導出活動費用	0円	2023年2月 ～2025年12月
第20回新株予約権	0円	・ mRNA医薬品開発の推進 ・ TUG1医薬の治験・導出活動費用 ・ 革新的mRNA技術獲得及びM&A	0円	2023年2月 ～2025年12月
第21回新株予約権	0円	・ mRNA医薬品開発の推進	0円	2024年6月 ～2028年6月

事業計画（2026年3月期）



（単位：百万円）	2025年3月期 実績（連結）	2026年3月期 計画（連結）	増減
売上高	108	75	△ 32
売上原価、販売費及び一般管理費	863	1,041	177
内：研究開発費	422	649	226
営業損失	△ 755	△ 966	△ 210
経常損失	△ 687	△ 856	△ 168
当期純損失	△ 835	△ 860	△ 25

2026年3月期の計画

売上高

化粧品材料供給等

研究開発費

- ① 臨床試験の加速 (TUG1 ASO/RUNX1 mRNA)
- ② パイプライン拡充のための研究開発推進

主な売上構成比	2025年3月期実績	2026年3月期予想
商品/原料等の販売	79%	100%
受託研究	21%	—

主な研究開発費構成比	2025年3月期実績	2026年3月期予想
臨床開発	45%	30%
探索・非臨床	7%	38%

Global leader for “RNA for health”



事業のリスク

中長期にわたる影響度の高い主なリスクへの対応策



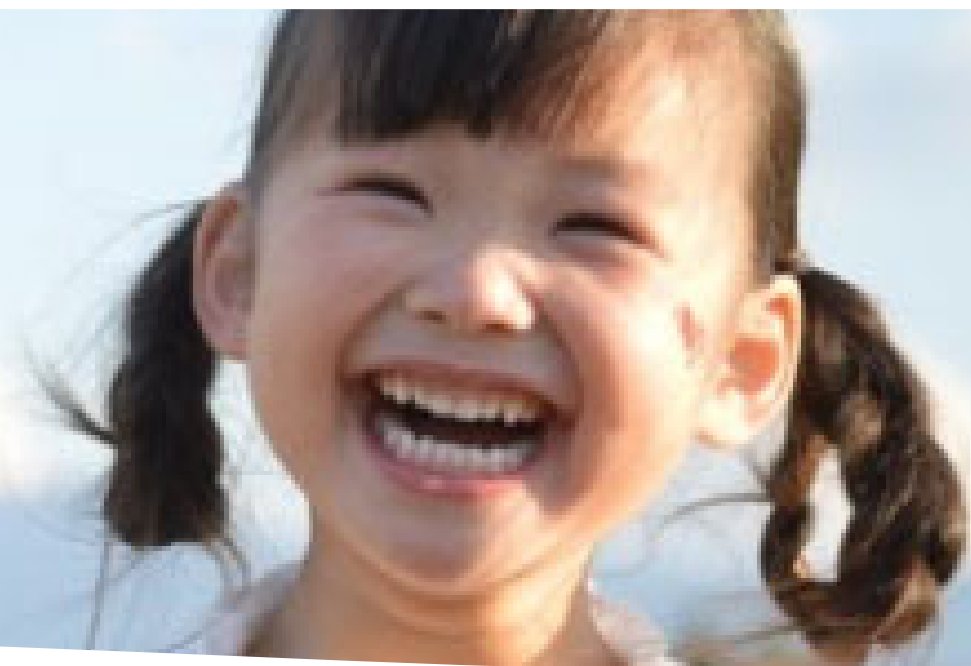
主なリスク	
パイプライン開発	新規パイプライン創製に関するリスク 創薬シードが順調に新規パイプラインへ推移しない可能性
	非臨床・臨床ステージに進捗したパイプラインに関するリスク 開発が順調に進捗しない可能性、および、当社が意図しない提携解消、ライセンスアウトに至らない、又はライセンスアウトできたとしても当社の望む契約条件に満たない等の可能性
資金調達	ライセンス導出までには複数年の研究開発投資を要し、定常に達するまで営業キャッシュ・フローがマイナスの状態が継続
	研究開発が計画通りに進捗する保証はないため、研究開発の遅延等が生じ、研究開発資金に不足が予想された場合には新たな資金調達が必要

リスク対応策
創薬シードは、製薬企業のニーズを十分に把握し、オープンイノベーションも最大限に活用し幅広いソースから質の高いシードを定常的に確保することでリスク低減に努めております。 ポートフォリオマネジメントの徹底による経営資源の効率的投入、プロジェクト管理、医療ニーズなどの変化に敏感に対応した方針および優先順位の見直し、初期段階からの提携先探索等によりリスクの低減に努めております。 シードから開発候補に至る確率向上に資する技術導入を、共同研究、提携、M&A等により柔軟に行うとともに、総合的な創薬体制を活用し開発候補に至らずとも収益が得られる受託型事業を増加させるなどリスクの低減に努めます。 上記の以外に、公的な競争資金等の積極活用も行っております。また、資金調達が必要となった場合に備え、効果的かつ効率的な資金調達手段を常に検討しております。

※ その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。



ありがとうございました



本資料の更新は、通期決算発表後（6月）および事業計画を見直した際に行う予定です。

本資料には、当社の事業及び展望に関する将来見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

また、医薬品（開発品）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。

NANO MRNA株式会社 コーポレートコミュニケーション部 03-6432-4791